

湯沢CS通信

令和6年3月26日 第69号

(発行) 湯沢市教育委員会

学校教育課 CS担当

今年度の活動 ありがとうございます

委員の皆さんには、学校運営協議会に参加していただき、それぞれの学校の課題解決に向けた話し合い、そして課題解決のための活動をしていただき、ありがとうございます。学校の教育目標の具現化に結び付けることができました。

各学校から評価書を提出していただきましたが、それを基にして成果と課題をまとめました。



成果①

学校の課題解決に向けて学校運営協議会が機能していること

「学校課題の解決に向けた協議ができた。」「必要に応じて臨時の協議会を開くなど地域の声を大切にして学校課題解決に向けて話し合い、動くことができました。」

という記述が複数ありました。また、熟議に参加した教員から「委員の皆さんが、よりよい学校にしたいという気持ちを強くもち、熱心に話し合っていること、そして、話し合ったことが実現できていることが成果であると感じる。」という意見もいただいています。

学校運営協議会は、学校(地域)の課題解決に向けて話し合う場であること、そしてその一つの手段として熟議が有効であることを来年度以降も引き続き共有していきます。

成果②

委員の役割を自覚した活動が増えていること

学校運営協議会の中にプロジェクトチームを作って活動したり、学習活動を進める上で必要な地域の方に交渉して学校に紹介したりするなど、委員としての役割を自覚して主体的に活動していただいたことで学習活動の充実に結び付けました。

課題①

CSの周知が不十分であること

その解決策として、「湯沢市の広報やCS通信で知らせること。」「学校から地域への発信が必要。」「学校運営協議会とPTAが連携することで認知度は上がる。」「教員や保護者・地域住民が熟議に参加することでCSの活性化と認知度の向上につながる。」などの意見をいただきました。来年度の取組に生かしていきます。

課題②

学校運営に保護者や地域住民の意見が反映できていないこと

「地域の声を集める方法について具体化ができていない。」「地域の声を学校に届けることができなかった。」「という記述が多くありました。その中であって、「公共施設に勤務していること」もあり、地域の声を学校に提供することができた。」という委員もいました。また、「委員が地域の意見を学校に届けられるように、様々な場で学校の取組を伝えながら感想や意見を収集できるようにしたい。」という記述もありました。委員の皆さんは学校運営協議会の委員のほかにも他の団体の委員を務めている方が多いと思います。そのような場で地域住民の声を聴き、学校に届けていただければ、この課題の解決につながっていくと思います。

